

会社を創業した時に利用したけど、今は利用していないという方も多い
日本政策金融公庫の国民生活事業、その活用のポイントを簡単にまとめてみました。

融資について

- ・過去の返済実績を重視します。そのため、業績好調の時こそ敢えて借りておき、借入残高を減らしておくこと、業績悪化時でも返した分くらいは追加で貸してくれることが多くそれで救われた会社も多いです。
- ・一社当たりの平均融資額は700万円で、支店の決済枠は2,000万円と、銀行などがやりたがらない小口融資を積極的に行っている中小企業寄りの金融機関です。
- ・当初借入額の6割~5割くらいまで返済を進めますと、折り返し融資を受けられるタイミングです。
- ・銀行や信用金庫と違って信用保証協会を一切利用しませんので、信用保証協会の枠をその分残しておけます。
- ・預金業務をしていませんので、借入金の入金口座、毎月の返済口座は民間金融機関を利用します。公庫から借りた運転資金を民間金融機関の預金口座に預け、民間金融機関の実質金利を上げることで、儲けさせてあげるといった高等テクニックもあります。
- ・創業融資といえばまずは公庫です。公庫で借りられればその後に民間金融機関も借りやすいですが、公庫の審査で落ちるようだと、銀行・信用金庫に相談しても非常に厳しいです。

金利について

- ・最近では、経営者の個人保証なしの融資が増えてきています。個人保証無しだと多少金利は上がりますが、経営者の負担は大幅に軽くなります。
- ・民間金融機関よりは金利が高めです。ただ、金利よりも、いざという時の資金調達のために返済実績を積むことが大切です。経営で大切なのは年に10万円の利息を削ることよりも、いざという時に1,000万円調達できることのはずです。

担当者について

- ・職員が公務員みたいで、民間金融機関のようにイケイケなタイプはまずいません。ただ、税金をイケイケで貸すような人物を、納税者である皆様が許すはずがないこと、冷静にお考えください。
- ・担当者の当たりハズレはかなりあります。馴染みの職員を紹介して下さる方がいらっしゃれば、そちらを頼った方が安全です。公庫は営業エリアの縛りがあまりなく、紹介案件については非常に広域で対応していただけます。
- ・融資審査にあたって、担当者と課長でほぼ話を詰めます。民間金融機関のように支店長が絶大な力を持っているわけではないので、担当者を大事にすることです。

※※絶対にメインバンクにはしてはいけませんし、公庫もメインバンクになる気はありません。※※
※※あくまでも民間金融機関の補完機関だということを忘れないことです。※※